

愛教大の「いま」にであえる情報誌



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

AUE Letter
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

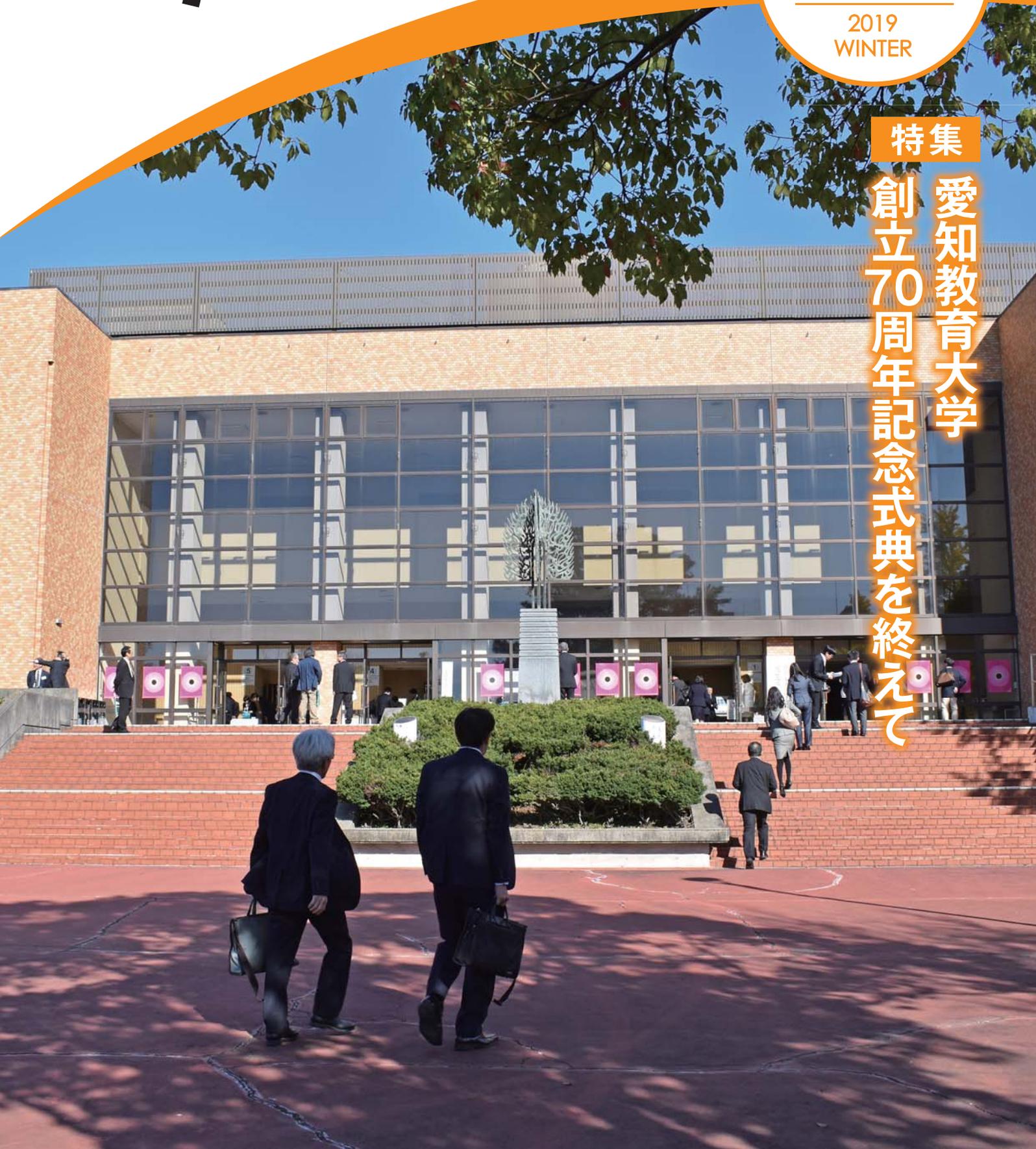
あゐる

VOL. 2

2019
WINTER

特集

愛知教育大学
創立70周年記念式典を終えて



愛知教育大学 創立70周年記念式典を終えて



1949年に開学した愛知教育大学は、1970年の刈谷市井ヶ谷地区への統合移転を経て、本年度、創立70周年を迎えました。創立70周年の節目の年を記念し、11月10日(日)に、記念式典、記念講演会、記念祝賀会を挙行了しました。当日は美しい秋晴れとなり抜けるような青い空が広がって、記念の日を祝うようでした。

記念式典

10:00~10:55

式典には約460人の来賓、卒業生、在学生、本学教職員の参加があり、盛大に創立70周年という節目を祝いました。講堂には70周年の記念ポスターが飾られ、来客者を出迎えました。

式典は、後藤ひとみ学長の式辞で始まりました。日頃からの本学への支援に感謝を述べた後、法人化以降、国立大学らしい、教育大学らしい強化に努めてきており、9年連続で正規教員就職者数全国一位の実績を果たしていること、2020年4月からは大学院を一本化して系統性をはかり、教職大学院を質・量の両面から充実を図ることを説明しました。そして最後に「愛知教育大学は、これからも地域に開かれ、愛される大学として教職員が丸となって務めて参ります」と決意を述べました。

続いて来賓を代表して萩生田光一 文部科学大臣(代読:伯井美徳 文部科学省高等教育局長)、元文部科学副大臣 丹羽秀樹 衆議院議員、大村秀章 愛知県知事(代読:長谷川洋 愛知県教育委員会教育長)から祝辞をいただきました。

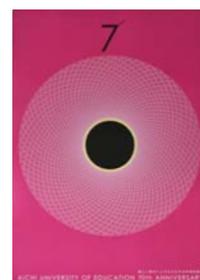
最後に、1949年に師範学校から愛知学芸大学となって始まった本学の歴史を「70年のあゆみ」として、菅沼教生 研究・人事担当理事が紹介しました。



式辞を述べる後藤ひとみ学長



本学の歴史を紹介する菅沼教生理事



美術教育講座 井戸真伸
准教授デザインのパスター



70周年記念誌
(写真は「学修環境整備10年」のページ)

記念講演会

11:00~12:00

式典に引き続き、井村屋グループ株式会社 代表取締役会長 浅田剛夫氏を講師に迎え、「井村屋の独創性と挑戦 ~強くて、しなやかで、魅力ある会社を目指す特色経営~」と題した記念講演が行われました。井村屋グループ株式会社と愛知教育大学の共通点など、時にユーモアを交えた講演に、聴衆が聞き入りました。



講演を行う浅田剛夫氏



記念祝賀会

12:15~13:45

70周年を記念しボイラー室を改修して整備された「次世代教育イノベーション棟」に会場を移し、記念祝賀会が行われました。入口ではロボットのPepperが参加者を案内しました。



次世代教育イノベーション棟

祝賀会では本学卒業生である斎藤嘉隆 参議院議員、大西健介 衆議院議員、稲垣 武 刈谷市長、小島浩資 東海テレビ放送株式会社 代表取締役社長より、祝辞をいただきました。また、同窓会長である竹原 裕 名誉教授の発声で乾杯が行われました。

テレビで放送された本学の最近の取組の映像が大型スクリーンで紹介されたり、本学のマスコットキャラクターである「愛教ちゃん」と「エディ」が登場したりと活気があふれる中で、約170人の参加者が懇談しました。



祝賀会参加者に配布された記念品
(タンブラー)とメッセージカード

ホームカミングデー

14:00~

同日はホームカミングデーも開催されました。在学生と卒業生が共に学び交流する「学びの交流会」として、大学教員が中心となって17講座が教科研究会やパラスポーツ運動会などを企画しました。約700人がそれぞれの講座に分かれて参加し、充実したひと時を過ごしました。ホームカミングデーは来年度からも引き続き開催していきます。これからも多くの皆様に参加していただけることを願っています。



愛知教育大学 創立から70年の歩み

1949 ○ 愛知学芸大学創立

1966 ○ 愛知教育大学に改称

1970 ○ 刈谷市井ヶ谷地区に統合移転

1978 ○ 教員養成大学大学院を設置 (全国で3番目)

2004 ○ 国立大学法人愛知教育大学へ移行

2008 ○ 教職大学院 (全国初の15校の一つ) を設置

2012 ○ 静岡大学と共同で後期3年博士課程を設置

2019 ○ 創立70周年を迎える

研究室訪問

理科教育講座

島田 知彦 准教授

(生物多様性・動物分類学)

研究を始めたきっかけを教えてください

私が小学生の時、教室にヒキガエルが飼われていました。私がそれまで見たこともないくらい大きなカエルで、普段はまったく動かないのに、ミミズを放り込む目にも止まらぬ速さで食らいつく姿に魅了されました。その頃からカエルの世界にどっぷり浸かって、大学院では東南アジアのカエルの分類に携わり、いまだに両生類の研究をしています。世界的に環境変化の影響で両生類自体は減っているのに、毎年新種が見つかって種数の方はすごい勢いで増え続けているんです。それだけ分かっていないことが多い生物なんですね。私もいくつか新種を見つけていますが、近場では三河山地の湿地に棲むミカワサンショウウオという種の新種記載にもかかわりました。

島田ゼミの学生はどのようなことを学んでいますか

研究室では、両生類をはじめとした身近な生き物の多様性や生活史を扱っています。ゼミ生には座学もさることながら、野外で生き物を見る技術、見せる技術を培ってほしいと思っています。私は子ども向けの講演に行く時には必ず自宅のヒキガエルを連れていきますが、子どもたちの反応は抜群です。ナマの生き物には本や映像教材にはない魅力があり、子どもたちを科学の世界にいざなう素晴らしいツールです。本学の特に理科を学ぶ学生には、生き物との正しい付き合い方を学び、科学と一般社会の橋渡し役として、さまざまな現場で活躍してほしいですね。



ナマの生き物には本や映像教材にはない魅力があり、子どもたちを科学の世界にいざなう素晴らしいツールです。

愛教大生ピックアップ!

初等教育教員養成課程

保健体育選修 松本 扶弥さん

400mで日本インカレ3位入賞

東海学生陸上競技春季大会 女子200m 1位 女子100m 2位 女子4×100mR 1位

第85回東海学生陸上競技対校選手権大会(東海インカレ) 女子400m 1位

天皇賜杯第88回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ) 女子400m 3位



陸上競技部 松本扶弥(ふみ)さんの今年度の成績です。さまざまな距離で活躍していることについて質問すると、「ひとつの距離に専念する人は多いのですが、私はどの距離でも他の人より早く走りたいと思って」と明るく笑顔で答えてくれました。

日本インカレは大学1年生以来の決勝進出となりました。しかし順風満帆ではなく、東海インカレでは1位になったものの肉離れを発症してしまいました。良いタイムで通過したいと狙っていたにもかかわらず、逆に怪我をしてしまったことは精神的に辛く、日本インカレに向かって体重がどんどん落ちたほど。そのようなプレッシャーの中で、見事に日本インカレ入賞を果たしました。

自身の競技だけでなく、陸上競技部の副主将として、短距離女子のチーフとしてチームを引っ張ってきた松本さん。

日本インカレ後の東海学生陸上競技秋季選手権大会では女子100mと女子4×100m リレー、4×400mリレーに出場し、いずれも1位。特に4×400mリレーでは圧巻の走りで大逆転を果たしました。4年生のため、この大会をもって引退です。松本さんは後輩に向け「目標をもって真面目にあきらめずにやっていけば結果はついてくると思います」と話しています。



100mも200mもどの距離でも他の人より早く走りたいと思って出場しています。



研究紹介

「イメージ奏法」による視聴覚融合の音楽が心身に与える影響について

音楽教育講座 武本 京子 教授



「イメージ奏法」とは、武本京子教授が開発し、確立させた視聴覚融合のピアノ演奏法です。「イメージ奏法」の授業では、演奏者の立場で、それぞれの時代の作品を音楽史の側面と音楽的要素のハーモニー、リズム、音色からの楽曲分析により、人々の思想や感情を考察し、言語、色彩で「イメージ楽譜」として可視化し、その「イメージ映像」を受講生全員でスクリーンで共有しながら演奏することにより、音楽による人の心に響く感情やそれを取り巻く社会や環境を考える多様性をお互いに受容し、それをインクルーシブ・リーダーシップでまとめていく力を育成することに重きを置いています。

「イメージ奏法」による視聴覚融合の音楽の供与は、現代のストレス社会を生きる子どもから大人までの自己受容を促し、メンタルヘルスをコントロールし良好な影響を与えるのではないかという考えの下、人間のストレスの生体に及ぼす影響とその客観的指標である脳内物質の生理学的指標を用いた心理学的・医学的な検証を愛知教育大学と藤田医科大学と共同で行い、音楽が心身に良い影響を与えることが分かりました。

将来教師になる学生達が、「音楽の力」に自信を持ち、児童、生徒の心に寄り添える心豊かな音楽教師を目指してほしいと願っています。

クラブ・サークル紹介

ダンス部

ダンス部は夏に行われる創作ダンスの全国大会のほか、学祭や地域のイベントにも積極的に参加し、2月には部で運営する自主公演も開催しています。部員で作品を深め合い、舞台上で表現する喜びは他では味わうことができません。

今年度は9月に行われた創作ダンスの大会で奨励賞を受賞することができました。今後も支えてくださる方への感謝の気持ちを忘れず、見ている方の感情を揺さぶるようなダンスができるよう、日々前進していきたいと思えます。



能楽部

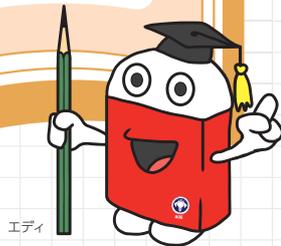
私たち能楽部は、1年生4名、2年生4名、4年生1名、大学院生1名の合計10名で活動しています。週一度の全体稽古を基本とし、月に2回、プロの能楽師の方に師匠稽古をつけていただいています。

毎年、2月、6月、8月と能楽堂で大きな大会があり、部員たちはその大会に向け鍛錬しています。毎年廃部の危機を迎えていた能楽部でしたが、今年は、1年生と2年生で5名の新入部員を迎えることができました。幾分か賑やかになりましたお稽古場で、これからも精進していきます。



#

愛教大 ニュース NEWS



祝50回開催! 「大学祭(春)」と「子どもまつり(春)」

5月18日(土)・19日(日)に「大学祭(春)」を、5月26日(日)に「子どもまつり(春)」を本学キャンパスで実施しました。両イベントとも記念すべき第50回の開催となりました。

大学祭のテーマは「Let's Party～みんなでつなぐ50の物語～」でした。『第50回の『記念("Party")』として大学祭を継続して開催することができたことの『感謝("Party")』を来場者に伝えたい』ということを目指しました。当日は実際の"Party"のように華やかにすることができました。

子どもまつりは、来場した子どもたちが学生と元気いっぱい企画を楽しむ姿が見られました。飾り付けられた装飾を子どもたちが喜んで持ち帰る風景はもはや風物詩ともいえます。

両イベントは学生主体行事であり、今後も継続・さらなる発展が期待されます。



夜回り先生愛教大に来たる!! 学長特別企画講演会「青少年問題の背景と原因—その解決に向けて」開催

11月6日(水)、夜回り先生として著名な花園大学客員教授 水谷修氏を講師に招き、学長特別企画講演会「青少年問題の背景と原因—その解決に向けて」を開催しました。水谷先生は夜の世界に足を踏み入れ子ども達と向き合うこととなった経緯や、いわゆる不良とは違うタイプの子も達が多く苦しんで助けを求めている状況を語りました。

「私がやっていることが正解ではない」と言いながらも、先生の語るエピソードには凄みがあり、静かな、しかし、時に熱っぽさのこもる語り口には実践者の重みがありました。誰もが水谷先生のように行動できるわけではない中、子どもを夜の世界に入れないために自分には何ができるのだろう、と考えさせられた講演会でした。



人的・知的資源の交流と社会貢献への寄与 東海テレビ放送株式会社と相互連携に関する協定を締結

10月16日(水)、本部棟第三会議室において、本学と東海テレビ放送株式会社との相互連携に関する協定を締結しました。

後藤ひとみ学長が東海テレビの番組審議会委員を務めていること、また本学学生の読み聞かせスキル向上のため、東海テレビのアナウンサーに指導いただいていることなど、これまでに関わりがありました。今回の協定締結により相互の人的・知的資源の交流を図り、本学学生のテレビ放送への理解促進と、東海テレビによる、本学学生の資質向上を実施していく予定です。



神社の天井をクラウンが走る 美術教育講座 松本昭彦教授が深田山神社の天井画を制作

本学の副学長で美術教育講座の松本昭彦教授が、豊田市にある深田山神社の拝殿の天井画を制作しました。この天井画にはなんとトヨタ自動車の歴代のクラウンが描かれています。

深田山神社はもともと、クラウンの生産で有名なトヨタ自動車の元町工場の敷地内にあった社が、約60年前にこの地に移転したものです。「元町工場といえばクラウンでしょ」という松本教授のアイデアにより、天井画のテーマは深田山地区とクラウンの歴史となりました。100年前から20年ごとに6枚の合計30枚で、45cm四方の天井板に一枚ずつ、深田山地区や豊田市内の風景と歴代トヨタクラウンが描かれています。

竣工の神事の後に開催された祝賀会では、建築関係の方々とともに松本教授に感謝状が贈られました。また、深田山神社が「クラウン神社」として世に広まれば、との期待の言葉をいただきました。



深田山神社と天井画

おもちゃを作って自由研究
形状記憶合金LABOシリーズを企業と共同開発



第一弾「動け宇宙」と第二弾「ねんど岡田ひとみのおどるパンケーキ」

技術教育講座の北村一浩教授が、形状記憶合金の加工販売を行う大府市の吉見製作所と自由研究教材を共同開発しました。形状記憶合金は温めると元の形に戻る金属です。教材では、この形状記憶合金でできたバネを使うことにより、ぴょんぴょん飛ぶようなユーモラスな動きをする仕掛けを作ることができます。

第一弾は「形状記憶合金LABO① 動け宇宙 ～形状記憶合金ってなんだ～」で、宇宙飛行士が動くキット。第二弾は「形状記憶合金LABO② ねんど岡田ひとみのおどるパンケーキ」でおねんどお姉さんこと岡田ひとみさんがデザインしたかわいいねんどが動くキットとなっています。

このキットは、吉見製作所のウェブショップで販売されており、北村教授は「新しい材料によって、世の中が大きく変わります。この教材を通して子どもたちに材料に興味を持ってもらいたいと思います」と話しています。

今年も快挙がぞくぞく
美術分野・音楽分野で学生たちが受賞・入選!!

美術・音楽分野で多くの学生が優れた作品を制作し、受賞や入選を果たしました。

美術分野では、第1回U-20日彫展で松木大悟さんが作品「絶望をこえた『忠実』」でU-20日彫賞を受賞、清流の国ぎふ芸術祭「第2回ぎふ美術展」彫刻部門で大瀬直之さんが作品「歩む」で優秀賞を受賞、改組 新 第6回日展(第3科 彫刻)で柴田茜さんが作品「地平」で入選しました。また、音楽分野では第73回全日本音楽コンクール 名古屋大会本選 声楽部門 大学の部で小島万里奈さんが2位に入賞しました。



受賞・入選の松木さん、大瀬さん、柴田さん、小島さん(左から)

AUE学生チャレンジ・プログラム
「フィリピン支援への第一歩～支援の輪を広げる～
特別講演会」を開催

11月27日(水)に、AUE学生チャレンジ・プログラム「フィリピン支援への第一歩～支援の輪を広げる～」が主催する特別講演会を実施しました。これは、同プログラムの学生たちが「多文化体験活動」でフィリピンに行った際に、現地で出会った大学生で、ストリートチルドレンだった経験を持つSheilaさんを日本に招いたものです。Sheilaさんは貧しさを理由にいじめを受けたこと、そしてそれを乗り越え自分が強くなったことを力強く語りました。

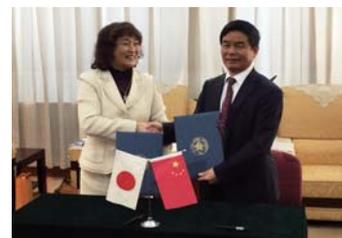
勉強する機会が与えられることは、世界では当たり前ではないこと、困難を乗り越えるために立ち向かうことの大切さを学ぶことができた講演会となりました。



講演するSheilaさん

陝西師範大学、北京師範大学と学術および
学生の交流に関する協定を締結

11月25日(月)に陝西師範大学、11月27日(水)到北京師範大学と学術および学生の交流に関する協定をそれぞれ締結しました。学長をはじめ本学関係者がそれぞれの大学を訪問して協定式を実施したほか、陝西師範大学では附属小学校の英語授業の見学、北京師範大学では双方が実施している多文化活動の今後について意見交換しました。今後、本学はそれぞれの大学と、学生・教員・学術情報の交換を実施していきます。



陝西師範大学(左)、北京師範大学(右)での協定式の様子

キャンパスめぐり



本学のキャンパスがある井ヶ谷地区は愛知県刈谷市北部の緑豊かな高台に位置しています。

秋から冬にかけては、イチョウやモミジの紅葉でキャンパスが色づきます。同時に冬の訪れを感じさせる花が咲き始めます。



愛教ちゃん

今後のイベント予定

3月23日(月)

卒業式

4月6日(月)

入学式

愛知教育大学未来基金へのご寄附のお願い

愛知教育大学は、子どもたちの未来を拓く人を育てる「教育の総合大学」として多くの学生を迎え、送り出してきました。未来へ羽ばたく多くの学生を支援するため、皆様からのご寄附・ご支援をお願いいたします。

愛知教育大学未来基金の種類

- ・「AUE修学支援基金」 経済的な理由で修学に困難がある本学学生を支援いただくための基金
- ・「教育研究基金」 学生表彰、課外活動、留学生の交流等、幅広く本学学生支援いただくための基金

なお、本学への寄附に対しましては、所得税法、法人税法による税法上の優遇措置を受けることができます。詳細はホームページをご覧ください。

愛知教育大学未来基金

<https://www.aichi-edu.ac.jp/intro/kikin/about.html>



愛知教育大学広報誌「あえる AUE Letter」 vol.2 (2019 Winter) 2020年2月発行



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

編集・発行／愛知教育大学 広報・地域連携課 広報・渉外係
E-mail／kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp
<https://www.aichi-edu.ac.jp>

